



うちのイチ押し!

大阪くらしの今昔館 特別展

「商都大坂の豪商・加島屋 あきない町家くらし」

期間

7/15(金)～9/26(月)

会場

大阪くらしの今昔館

〒530-0041 大阪市北区天神橋6丁目4-20 住まい情報センタービル8階

堂島米屋市場の中心的存在であった豪商・加島屋廣岡家。近年新たに発見された資料の研究結果をもとに、屋敷や店構えの様子を明らかにし、江戸時代から昭和にかけての商い・住まい・暮らしを紹介します。



「旧各藩米券集」 個人蔵



包銀用印 大同生命保険株式会社蔵

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日 毎週火曜日

入館料 一般400円 高・大学生300円(要学生証原本提示)

※8階常設展と特別展をご覧ください。

(天井改修工事に伴い令和4年9月26日(月)まで9階常設展・10階展望フロアを閉鎖しています)

※中学生以下、障がい者手帳・ミライID等をお持ちの方(介護者1名含む)、

大阪市内在住の65歳以上の方は観覧無料(要証明書提示)

※学生証・証明書については、原本提示に限る

アクセス Osaka Metro堺筋線・谷町線、阪急電鉄「天神橋筋六丁目」駅下車③号出口直結
JR環状線「天満」下車 商店街を北へ7分

主催：大阪市立住まいのミュージアム 特別協力：大同生命保険株式会社

問合先 大阪くらしの今昔館 電話 06-6242-1170 FAX 06-6354-8601 URL <https://www.osaka-angenet.jp/konjyakukan/>



菊型電気スタンド 個人蔵

吹子屋町筋の碑—天満にあったフィゴ屋の名残—

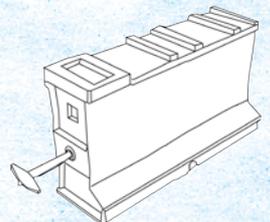
フィゴと言う道具を知っていますか。金属の製錬や精錬、鍛造や鋳造といった加工を行うときに高温を得るために使う送風機です。文部省唱歌の「村の鍛冶屋」にも歌われており、かつては私たちの生活の身近にあったもののようです。

このフィゴの一大生産拠点が大阪天満の街の一角にありました。天神橋北詰の菅原町にあった通称「吹子屋町」です。江戸時代中期には20軒余りの吹子屋があり大小各種のフィゴを生産していたと、江戸時代のガイドブックにあたる『改正増補難波丸綱目』[延享五年(1748)]などの文献に記されています。江戸時代の大阪は商都であるとともに、銅吹葉や大坂新刀の刀鍛冶など金属加工業も盛んにおこなわれていました。そうした冶金業を支える周辺産業として、火を使う職人にとって、なくてはならないフィゴの生産も盛大に行われ、さらには諸国に流通するまでになっていたようです。

金属加工業は近代化の流れで機械化がすすみ、国内でも手差しの箱フィゴを見かけることはほとんどなくなりました。天満のフィゴ屋も大正時代にその幕を閉じたようです。現在の北区菅原町にはかつての名残を示す吹子屋町筋の石碑がひっそりと立っています。



吹子屋町筋の石碑



箱フィゴ

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



おおさか

歴史探訪

170

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続で紹介いたします。